

## アセアン現地レポート 【2013年9月号】

平成25年9月30日

三重県アセアンビジネスサポートデスク

株式会社野村総合研究所（NRI）

### 【タイ】 訪日ビザ免除でタイ人旅行者が倍増

日本政府はタイ人の短期旅行者に対する入国査証（ビザ）を2013年7月より免除し始めた。これに伴い、タイにある旅行代理店や航空会社などは日本観光プロモーションやビザ免除記念特別料金などを設定して、タイ人の訪日需要を喚起している。実際、日本政府観光局（JNTO）発表の統計（推計値）によると、タイ人訪日者数は2013年7月で3万200人（前年同月比84.7%増）、8月で2万3900人（同102.3%増）と急増している。東京・大阪以外でタイ人に人気の観光地としては北海道や飛騨高山など、早くからタイ人向けの観光プロモーションを実施してきた地域が挙げられる。また、タイ国際航空は、10月からバンコク⇄札幌便を1日1便に増便し、12月にはバンコク⇄仙台便を定期就航させる予定である。タイ人の国外旅行は10月からピーク期に入るため、日本を訪れるタイ人旅行者は今後ますます増加するものと見込まれる。

### 【タイ】 工業団地の新造・拡張が続く

タイでは堅調な直接投資に支えられて、工業団地の新造や拡張が続いている。タイ工業団地公団ではタイ国内にこれまで累計で48カ所の工業団地に開発免許を交付してきており、既に36カ所が操業を開始し、残りは建設中である。現状の趨勢ではあと数年で既に操業中の工業団地が満杯に近付く見込みである。同公団では、近々、さらに十数カ所の工業団地の整備計画を承認する予定であり、進出・拡張企業に対して十分に工業用地を提供できるよう図るとしている。タイは2011年後半に大規模な洪水被害を経験した。よって、洪水被害のあったチャオプラヤ水系から離れた地域の工業団地に、工場進出や移転が続いている。日系企業でも新規の進出や拡張工事などは、ほとんど全てが非被災地域で行われている。また、これにともない、日系の建設会社やエンジニアリング会社は受注が極めて好調である。

### 【タイ】 増加し続ける日本食の出店

タイには現在、約1700店舗を超える和食屋があり、7年前の2006年と比べて3倍近い店舗数となっている（日本食レストラン海外普及推進機構の推計）。特に、バンコク首都圏の一人当たりGDPはすでに一万ドルを超えており、いわゆる中間所得層が台頭している。日系の外食チェーンも多数進出しており、その多くの主要な顧客は在タイ日本人というよりもタイ人の富裕層や中間所得層である。ジェトロ調査（2012年）によれば、タイ人の好きな外国料理の一番人気は日本食である。2012年には日本食が飲食店の9割を占める、和食をテーマとしたショッピングセンター「ゲートウェイ・エカマイ」まで開業し、タイ人に人気を博している。タイは安定的に経済成長をしており、今後も一人当たり所得が伸び続けると見込まれている。よって、最近においても、和食屋の新規進出や検討が堅調であり、店舗設計会社や内装工事会社、食材業者などのビジネスも好調である。